令和７年度
スクール・エンパワーメント推進事業　取組み成果リーフレット

テーマ：言語活動を充実させ「伝え合い、学び合う」授業づくり

言語能力を育むモデル校
高石市立羽衣小学校

つけたい力

・話し合いを通じて、自分の考えを深め、広げようとする力
・根拠をもとに、自分の考えを伝え合う力

取組みの概要・ポイント

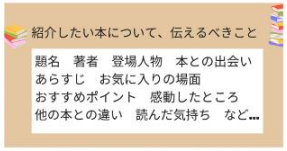
・話し合いの方法を身につけるために、「羽衣話型」を活用。
・学校図書館を基盤とした、図書資料を積極的に活用した授業づくり。
・委員会活動における、図書資料活用や読書活動の推進。

実践報告スライド

具体的な取組みの内容

読書活動・図書館活用

●第１回羽衣小学校ビブリオバトル　（５・６年生で実施）
初回は、先生がバトラーとなり、ルール等を確認。自分が紹介したい本を選び、聞き手に伝わるように内容を工夫し、話し方を考える。
・（予選）各クラスでグループ→クラスの流れでチャンプ本を決定する。
・（本選）５・６年生全児童が体育館に集まり、各クラスから選ばれた本を紹介。Googleフォームを活用し、その場でチャンプ本を決定。
※グループから選ばれたチャンプ本は図書室や廊下に掲示して紹介。



●その他　　市立図書館との連携による単元にあわせた図書の配架、３～６年全児童による市立図書館主催の「調べる学習コンクール」参加、委員会での図書資料活用等。

物語教材の研究

●「友情のかべ新聞」
通読せずに、友だちと話の展開を予想しながら読み進めた。さまざまなミステリーの本を並行読書しながら、おすすめしたい本をその中から選び、なぞを３つ紹介しながらリーフレットを作って紹介。

●「題名に注目！」
本を選ぶときに最初に見る題名について考えた。今までに学習した物語の題名を「人物名」「キーアイテム・キーコンセプト」「セリフ・文」の３つにわけ、その視点を意識しながら図書室で本探しを行った。題名に注目して選んだ本について、友だちと一緒に内容を予想してから、みんなで読み進めて、題名に対する作者の思いを考えた。

言語活動の充実

●羽衣話型
話し合い活動のときに、一方的に話す児童と聞くだけになっている児童の二極化がめだったため、まずは「話すこと・聞くこと」を大切にするために「羽衣話型」を作成。
学習指導要領やことばの力を参考に、自校の課題や学年の発達段階に合わせた内容になっている。国語に限らず、さまざまな教科での話し合い活動において活用。

●「話す・聞く」から「話し合う」
各クラスでよりよい話し合いにするために大切なことは何かを考え、出た意見を付け加えたクラスオリジナル話型にバージョンアップさせ、担当者を中心に全教員で共有を図る。さらに、国語科をはじめとした全ての学習活動で話型を活用。

取組みを通しての子どもの変容

話し合い活動では、相手の話を聞こうという意識が高まり、話し合いのときにうなずいたり反応をしたりすること等により、「聞く力」が育まれ、より深い意見交流の場面が増加した。また、話をしっかりと聞いてもらえるという安心感から、話す児童も増えてきた。話し合い活動が活発になり、多様な考えを知ることにより、自分の考えを広げ考えを深める児童の姿がみられた。並行読書や本の校内掲示が読書喚起につながった。

学習アンケート	R7 4月	R7 12月
以前より読書への興味が深まった	６５％	７８％
自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している	６５％	８７％